
第2版序文

私がプロ向けのオプション解説書の出版についてプロブス・パブリッシング社と話し合っていた1986年当時、果たしてそんな本を出すほど世間がオプションについて関心を持っているのか、相当疑わしい状況だった。そもそも、オプション専門のトレーダー自体、それほどいなかったように思う。

ところが、うれしいことに本書が発売されると大勢のプロが買い求めてくれた。しかも、多くの一般の人たちまでが、大いに興味を持っていてくれるらしいと分かったのだ。

今回の改訂版も、その狙い自体は変わらない。新たに加えた題材に最も大きな関心を示すのは「懸命なトレーダー」たちだろう。だれもが関心を示すだろうが、最も精力的に時間を割き、その題材を習得しようと励むのは、オプションの完全理解に生活がかかっている懸命なトレーダーたちである。

新版では、初版を読んだトレーダーたちから寄せられた助言や提案を反映している。そして、次の重要項目を追加した。

株式オプションの解説の拡充 初版の執筆に取りかかったとき重点に置いたのは、商品先物オプションであった。これは主にマーケティングの結果である。当時、株式オプションの書籍は多少あったが、商品先物オプションの本は、ほぼ皆無に等しかったからだ。しかし、初版が成功し、シカゴ・オプション取引所（CBOE）で働く多くの友人たちの提案もあり、株式オプションも同等に取り上げることにした。

ボラティリティの解説の充実 その重要性を考え、第2章でボラティリティの特性と問題点についてさらに詳細な解説を追加した。

株価指数の先物とオプションについての章を追加 株価指数の派生

商品市場は非常に重要なものとなり、また密接に関連している。オプションの本であれば解説が必要だ。指数市場のあらゆる特質をひとつの章だけで解説するのは不可能だろう。しかし、これらの市場が従来のオプション市場とどのように異なり、その違いが売買戦略にどのような影響をもたらすかについて、できるだけ触れてみた。

市場間スプレッドの解説 最も洗練された売買戦略の多くは、ある原市場のオプションと別の原市場のオプションのスプレッドに関連したものである。原市場の相互関係について、そしてそれらが「ミスプライス」の関係にあると思えるとき、スプレッドを組む方法について解説した。

ボラティリティスキューの解説の充実 これはおそらく質問が最も多い分野で、権利行使価格で異なるインプライドボラティリティ（IV）の傾向のことである。この現象について、そしてトレーダーとして、この問題をどのように扱えばよいか解説した。

一方、次の2つのテーマは削除した。

ソフトウェアガイド 新しい分析ソフトが続々と開発されており、初版のように開発会社や製品のリストを掲載しても、すぐに実状に合わなくなってしまう。また、私があらゆるソフトに詳しいわけでもない。優れた製品を出している開発会社をうっかり省いてしまったら不公平である。ソフトを選ぶときは、ほかのトレーダーたちと情報交換をしたり、業界紙を読んでオプション評価に利用されているプログラムを探したりするのが最善の方法だ。

ヒストリカルボラティリティ 初版が出たとき、不慣れなトレーダーはボラティリティデータをまったく利用できないこともあると思い、いくつかの先物のヒストリカルボラティリティ（HV）のグラフを掲載した。しかし、今やほとんどのトレーダーは、何らかのボラティリ

ティデータを利用できる。もはや、すぐに陳腐化するチャートを載せるだけの価値はない。

初版で述べたように、私は理論家ではない。したがって、本書をオプションの「理論」書にするつもりはない。理論は重要だが、実際のオプション売買の「手段」にすぎない。そこで理論に偏らないため、専門用語はできるだけ使わないようにした。

また、読者に代わって売買判断をしたり、売買法を強制したりするつもりもない。オプション市場で成功する方法はいくらでもあるからだ。しかし、トレーダー独自のスタイルは別にして、必要な「ツール」に十分習熟していなければ成功は困難になる。

こうしたツールのこと、その機能やその多様な利用法について説明し、トレーダー独自のニーズやスタイルにかなった判断ができるようにした。むしろ、読者が私自身の好みや偏見に染まってしまわないように、できるかぎりの注意を払った。

ある意味、初版にもこの第2版にも目新しいものは何もない。理論も売買戦略もリスク管理の問題もすべて、経験豊富なトレーダーには当たり前のものである。私の目標は、こうしたすべての題材を整理し、分かりやすく紹介し、意欲的で懸命なトレーダーに成功への強固な基盤を作ってもらうことである。

本書は私一人の努力の結果ではない。精読して助言し提案してくれた大勢のプロたちの知恵の結晶である。皆様の協力のおかげで、オプションの重要事項をすべて扱うことができた。ご協力いただいたトレーダーの方々、そして労を惜しまず支えてくれた編集の皆様に、心からの感謝の意をささげたい。

1994年6月

シェルダン・ネイテンバーグ (シカゴ)